

学内広報

for communication across the UT



特集：

東大病院いちよう保育園、オープン！
「東京大学の業務改善」着々と進行中！

4月4日(水)午前10時から医学部附属病院において、「東大病院いちょう保育園」の開園式が行われ、小宮山宏総長及び武谷雄二医学部附属病院長の挨拶、来賓の方々からの祝辞があった後、看板の上掲、施設見学等が行われました。開園式には、入園児7人のうち2人が出席。小宮山総長は挨拶の中で「しっかり食べて、元気に大きくなって。その後は東京大学に入ってくれるとうれしいね。」と園児に話かけられました。また、小宮山総長と武谷医学部附属病院長から園児2人に入園記念のリボンがプレゼントされるなど、終始なごやかな雰囲気で行われ、開園式は終了しました。



いちょう保育園
の開園は
「東京大学男女共同
参画基本計画」
の成果なのです!



男女共同
参画
ってなに?

東京大学では、平成15年度に「東京大学男女共同参画基本計画」を決定、また、小宮山総長の方針表明である「東京大学アクション・プラン2005-2008」の中で「次世代育成支援及び男女共同参画のための環境整備」を明記し、平成18年4月には総長直轄の男女共同参画室を設置して男女共同参画推進に積極的に取り組んでいます。

男女共同参画室では、東京大学に働き、学ぶ人達が、教育・研究・業務・勉学と子育てとを両立できるよう支援するため、平成18年12月に「東京大学教職員・学生等のための保育施設整備の基本方針」を策定し、今後、学内4キャンパス(本郷地区・駒場地区・白金地区・柏地区)にそれぞれのニーズに合わせた保育施設の整備を進めていくこととしています。

このたび開園した「東大病院いちょう保育園」はその一つで、保育対象は医学部附属病院の教職員の子供に限られていますが、今後は、学生や他の教職員の子供も対象にした保育施設を順次整備していく方針であり、ここでは、保育施設整備の基本方針(概要)をはじめ、男女共同参画室の取り組み等について紹介します。

東京大学教職員・学生のための保育施設整備の基本方針(概要)



種類

主としてそのキャンパスに所在する全部局を対象として設置する「全部局対象保育施設」と、各部局で設置する「特定部局対象保育施設」の2種類。

保育施設の整備計画

全体計画の下、なるべく早期に条件を整え、順次整備をしていく。

常時保育の受入時期

教職員、ポスドク、学生等が利用を希望する日からの受入れを原則とする。

保育時間

全部局対象保育施設では、基本的に、月曜日から土曜日まで、13時間開所する(東京都認証保育所の基準)。

利用対象者

- ★常時保育及び一時保育を行い、全部局対象保育施設では、主として本学の教職員、ポスドク、学生等を対象とする。特定部局対象保育施設では、部局関係者の優先を可とする。
- ★東京都認証保育所として設置される保育施設では、地域住民も対象とする。
- ★一時保育では、学会等で来訪する教員等(外国人を含む)、地域住民も対象とする。

保育対象年齢等

全部局対象保育施設では、0歳児から5歳児(就学前)までを対象とする。病児保育についても検討する。中長期的には、小学1年生からの就学児についても、放課後を保育対象とするよう検討する。

保育料

保育施設の運営主体が異なる場合であっても、単位(1時間、1ヶ月)当たりの保育料に大きな格差が生じないように調整を図る。ポスドク及び学生については、補助制度の創設を検討する。

設置場所

保育施設の新設場所については、各キャンパスにおいて、基準面積の確保、利用者の利便性等を総合的に判断し、早急に候補地を選定する。



東京大学関係保育施設の現状

	全部局対象保育施設		特定部局対象保育施設	
	名称	現状(予定)	名称	現状(予定)
本郷	【新設】 東京大学 本郷地区保育園	運営：本部→業者委託 定員：30名予定 年齢：0～5歳児 ※19年秋頃 開設目途に検討中	【新設】 東大病院 いちよう保育園	運営：病院→業者委託 定員：32名 年齢：0～5歳児 ※19年4月開設
駒場Ⅰ	【既存】 東京大学 駒場地区保育所	運営：NPO法人 東大駒場保育の会 定員：30名 年齢：0～5歳児		
駒場Ⅱ	【新設】 東京大学 駒場Ⅱ地区保育園	運営： 定員：未定 年齢：		
白金			【既存】 医科研臨時授乳室 「ひまわり保育園」	運営：医科学研究所直営 (運営委員会) 定員：13名 年齢：0～3歳児 ※19年度中に改修予定
柏	検討中			

東京大学における男女共同参画の取り組み



東京大学では、総長の方針表明として公表している「東京大学アクション・プラン2005-2008」の中で「次世代育成支援及び男女共同参画のための環境整備」を明記し、さらに、「女性研究者支援の推進」、「男女職員ともにワークライフバランスが可能となるような勤務環境の整備」、「学内の重要な役職における女性比率の向上」の3点を目標に掲げています。

特に、女性研究者支援の推進については、平成15年度に決定した「東京大学男女共同参画基本計画」に基づいて、各部局で取り組みを進めてきましたが、他大学と比較すると依然として女性研究者の割合が低いことから、学術の裾野を形成する優秀な女子学生が研究者への進路を選択するよう促す全学的な取り組みが必要となっています。

男女共同参画室では、室を勤務態様、環境整備及び進学促進の3つの検討部会に分け、それぞれ教職員が連携して、以下のような活動を行っています。

新旧室長からごあいさつ

前室長

社会科学研究所 教授

(任期:平成18年4月1日~平成19年4月30日)

大澤真理

当室は昨年度、東京大学男女共同参画基本計画(平成15年度決定)を同推進計画にバージョンアップしたほか、さつき会のご協力を得てオープンキャンパスに女性コースを提供、育児休業を取りやすい勤務態様を整備、保育施設整備の基本方針を確立し医学部附属病院に保育園を開設、女子高校生のために入試説明会を開催、といった様々な取り組みを行ないました。本年度より科学技術振興調整「女性研究者支援モデル育成」にも採択され、一層充実すると期待します。

新室長

医学系研究科 教授

(任期:平成19年5月1日~)

村嶋幸代

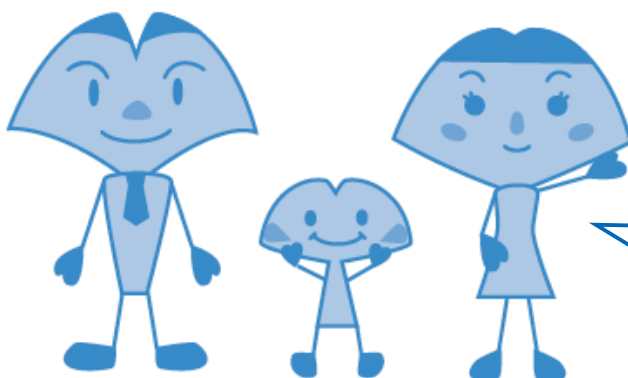
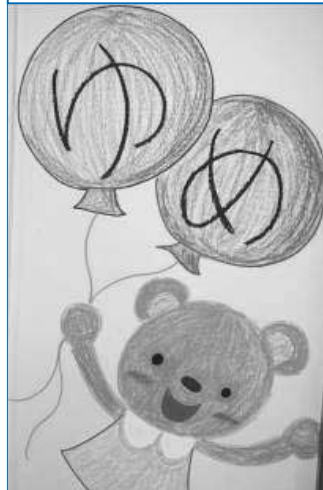
男女共同参画は、少子高齢社会を生き抜く大事な戦略です。女性が能力を発揮しやすく働きやすい社会は、男性にとっても働きやすい社会だと考えます。また、自分が成長するだけでなく、次世代を育み、先の世代を看取っていくことは、とても大事な事だと思います。そういう暮らしやすい社会の実現に、東京大学が真剣に取り組むのだという表現形として、男女共同参画室の活動があるのだと思います。大澤室長が築いて下さった基盤を、皆様と共に発展させていきたいと思っています。

男女共同参画の主な取り組み

東京大学男女共同参画基本計画(平成15年度決定)の見直しを行い、全学の目標設定達成に向けて推進計画の策定・実施。

東京大学、イェール大学、ケンブリッジ大学等世界8か国10大学からなる国際研究型大学連合(International Alliance of Research Universities; IARU)の「世界の大学における女性の理解」プロジェクトに積極的に参画。

次世代育成支援対策推進法に基づく第2期行動計画(平成19年度~平成21年度)の策定・実施。(第1期行動計画(平成17年度~平成18年度)については、目標を達成し、現在、基準を満たした事業主に与えられる「次世代認定マーク」取得を申請中)



男女共同
参画!

東京大学男女共同参画 推進計画(骨子)

勤務態様部会

- ①多彩な支援メニュー
- ②キャリア形成期研究者支援
- ③メンターの起用

男女共同参画室の直轄事項

- ①東京大学男女共同参画基本計画の進行管理
- ②国際連携本部と連携し、女性研究者支援の取り組みに参加

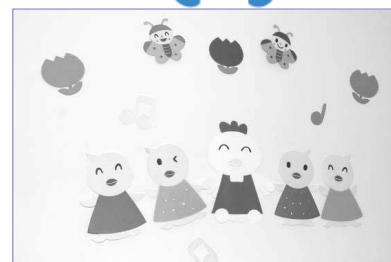
環境整備部会

- ①保育施設の整備
- ②トイレ及び休憩室等のアメニティ充実
- ③安心・安全の確保

進学促進部会

- ①女子高校生のための東京大学説明会の開催
- ②オープンキャンパスの開催
- ③女子高校生のための進学振り分けガイダンス・キャリアガイダンスの実施

3つの部会があるんだね



各部会の主な取り組み

勤務態様部会

女性研究者が持続して教育研究活動に従事できるようなメニューの提案・整備。→主な支援メニューは、学内業務の軽減、非常勤講師・補助要員の雇用、キャリア形成期研究者支援フェロウシップ、メンターの起用等。

支援メニューに関連して、任期付教員についてその流動性確保と、仕事と育児の両立支援の観点から、育児休業取得期間（産前・産後休暇期間を含む）を除き、当初設定された任期を実質的に確保できる制度（特例任期）を平成19年度から導入。

環境整備部会

学内4キャンパスに保育施設を整備し、施設間での連携・協力を図るための基本方針の策定・実施。

搾乳や乳幼児の世話ができるものを基本とし、妊娠中の教職員及び学生等も静養できる休養スペースや女子トイレの整備。

キャンパス内における夜間歩行の安全に配慮するため、特に主要建物から主要道路までのルートに夜間照明を整備。

進学促進部会

女子高校生のための入試ガイダンス等（女子高校生のための入試説明会・オープンキャンパスでのセミナーの開催、中高生向けのサイエンスセミナーの開催、女子高校生向けのパンフレットの作成）の実施。

女子学生のための進学振り分けガイダンスの実施。

女子学生のためのキャリアガイダンスの実施。

INFORMATION

男女共同参画室では、以上のような取り組みを積極的に推進していますが、今回紹介しました保育施設の基本方針をはじめ、基本計画、推進計画、次世代育成支援等につきましては、東京大学男女共同参画室HPに掲載しておりますので、この機会に是非ご覧ください。

東京大学男女共同参画室HP <http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/>

問い合わせ先: 人事部人事課 総務・制度チーム (内)22060



東京大学では、平成16年4月の法人化以降、様々な業務改善を積極的に推進してきました。特に「教職員提案課題」「自律改善課題」の募集は、その推進に大きな役割を果たしてきました。今年度も引き続き募集を行いますので、ふるってご応募ください。今回の特集では、これまでに提案された課題の中で、全学的にも効果の大きかったもの、また自律改善の取組例をあらためてご紹介します！

まずは募集告知から……

教職員提案課題の募集

- ◆個人では難しいが、組織的に取り組めば改善されるのでは？
- ◆この気づき・アイデアを全学に広めたら業務が効率化されるのでは？

自律改善登録課題の募集

- ◆今年はチームでこんな改善にとりこんでみよう！
- ◆自分たちの活動計画を、成果を出して報告しよう！



応募してね！

締切：5月31日(木)

優れた課題は、業務改善「総長賞」対象とします
12月21日表彰式(予定)

応募先：業務改善グループ

gyoumukaizen@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

それでは！

教職員提案課題の募集

から生まれた
全学的改善結果
の感想を
実務担当者に
直撃
インタビュー！



① 年度途中における雇用契約の更新・延長手続き

1年度に延長と更新の2回必要だった手続きが、平成18年度より、更新年1回になった。

② 給与算定調書様式変更

時給の上限金額であることが明らかな場合でも経歴記入をしていたが、様式を変更し、条件を満たせば省略できることとした。



担当者の1人であり、①の提案者でもある医学部附属病院事務部総務課の今橋さん、効果のほどはいかがでしたか？

①は大幅な業務削減となりました。また、毎月年度途中の更新者を見落としてないか気を遣わなくてよくなりました。②については、採用手続きの中で給与算定が大きな比重を占めていたので、その軽減はありがたいです。特に上限と分かってきている人の算定をしなくてよくなったことはよかったです。



次に、教養学部総務課人事係の皆さん、いかがでしたか？

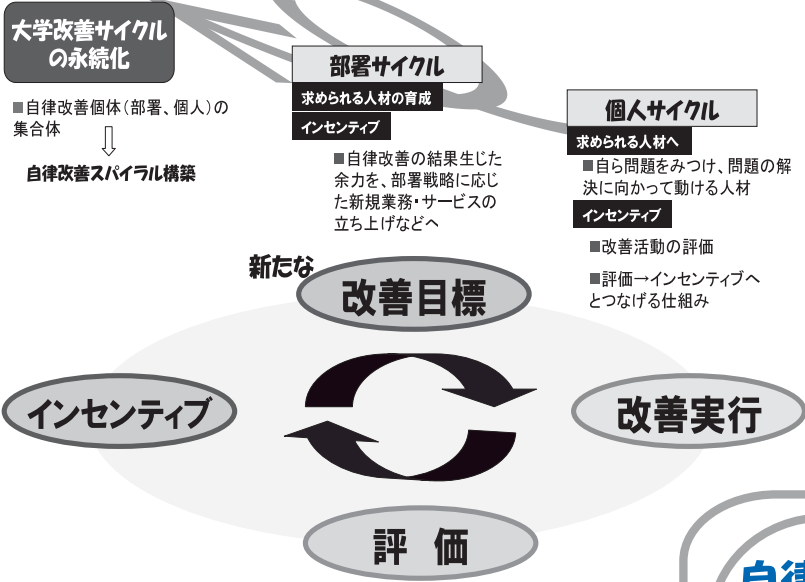
業務量が大幅に削減されて、とても助かっています。また、更新・延長の概念は被雇用者にとって理解しづらく、雇用者側も説明しづらい制度だったのでその点も改善されて良かったです。



CASE 1

短時間勤務有期雇用教職員任免手続き関係の改善

業務改善 自律改善サイクル



POINT 1

日常的な活動に高める

POINT 2

自律改善サイクル化

POINT 3

大胆に見直す

POINT 4

企画立案業務へシフト

自律改善登録課題の募集

業務改善は「自律改善スパイラル」の構築を目指しています。ここで、医学部附属病院の改善についても、ちょっとお話をうかがいましょう！

※平成18年度の業務改善自律改善課題において、全応募25件中、医学部附属病院が7件もの課題を応募！（そのうち2件が表彰されました）業務改善に組織的に取り組んだことが評価され、業務改善「総長特別賞」が授与されました。



会計処理上必要がない旅行雑費の旅費計算書への記載について、外国旅行における旅行雑費のうち課税対象にならないものは航空運賃に含めることで省略した。（「業務改善に向けた事務処理の見直しについて」（平成19年1月11日付け東大財調発第24号））参照



それでは、教養学部経理課経理係の武田さん、提案の動機と改善の効果をお聞かせください。

外部資金等も含め本部署だけでも、年間1300件近い海外出張・招聘があります。以前は詳細な旅行雑費の内訳を記載するために、招聘側教員と担当側とで苦労していました。それで会計上必要とされる課税対象経費のみを記入すれば、旅費の計算上よいはずであると思い、提案しました。

これが実現されたことにより、海外からの証憑（チケット・請求書等）の内訳を読み取る労力がなくなり、余裕をもって支払処理ができるようになりました。

この提案の受賞のあと、他部局の方々から問合せがあり、皆さん同じ苦労をなさっていたのだなと思いました。ちょっとはお役に立てたかと嬉しく思いました。



CASE 2 旅費計算書の取扱の簡素化



医学部附属病院総務課の塚田さん、恒常的に業務改善を進めて行く気風はどこからうまれるのですか？

組織が大きいですので改善効果が大きいです、よって自分や他人が助かり、更に他の改善を探す欲が出る。というスパイラルが構築されているのだと思います。



業務改善に関わる事務部での制度や工夫点等ありますか？

事務部全体の意思決定を部長会というもので頻繁に且つ深く検討される仕組みがあります。



現在進行中の改善などありましたら、教えてください。

職員用マッサージ室立上げ、身近な危険簡易投稿システム立上げ、研究用試薬チェック体制強化などに取り組んでいます！



医学部附属病院



人件費 の 削減

超過勤務の削減／非常勤職員の削減

外部コンサルの改善項目のフォローアップ、職員提案課題を実施することにより、年間の超過勤務手当の支給実績額が前年度比92.2%、非常勤職員数(事務系)においては20名近くの削減が図られました。(平成17年度)

業務の 簡素化・ 効率化

マニュアル整備による業務の効率化

財務部資産課において、平成17年度に第1版を作成して全学に配付し、また平成18年度においてはさらに内容を充実させた第2版を作成・配付しました。その結果、学内処理手順が統一化され、また部局担当者からの問合せが減り、決算時のとりまとめ等もスムーズに行うことができるようになりました。

経費 削減

加除式法令集の見直しによる経費の削減

加除式法令集の全学的な見直しを図った結果、約3,800万円が削減されました。(前年度実績減)

過去の業務改善表彰

平成16年度	
★特選	旅行依頼簿の廃止など一連の旅費事務の簡素化
★特選	平成15年から導入して改善を続けている文書管理システム、掲示板システム、各種手続きヘルプ等の紹介
平成17年度第1期	
★特選	非常勤職員の雇用期間延長・更新手続きの簡素化
★特選	非常勤職員の採用上申「更新回数等」削減
★特選	短時間有期雇用職員への労働条件通知書の簡略化
平成17年度第2期	
★特選	人事異動の時期を原則7月1日とする
平成18年度	
★総長賞 (海外研修)	柏キャンパス高圧ガスボンベ一括管理体制の構築
★総長賞 (国内研修)	日常業務(固定資産会計)に関するマニュアルの配布



『東京大学アクション・プラン2006』では、「IV 組織運営」の「IV-1 現場サポートの強化・業務改善の推進と教育研究時間の確保」という項目の中に、「2.業務改善を日常的な活動に高め、自律サイクル化」と記されています。このプランに準拠した取組実績としては、以下の1から3が該当します。

1. 業務の質・スピードの向上

業務改善提案の募集

平成16年11月より教職員からの提案募集を開始した。課題は担当部署（課題によっては業務改善プロジェクトWG）において検討した。

自律改善課題の募集（登録10件 推薦15件）

各部署・部局で自主的に業務改善に取り組むことを促進するために、事前に業務改善の内容を登録または事後に課題を推薦する新制度。

2006年度業務改善「総長賞」表彰式開催

表彰式を安田講堂で執り行い、賞の授与とともに、総長が「東京大学の目指すところと職員の使命」と題し、職員を激励した。



ポータルサイト (UT-Portal) の試行開始

平成18年3月から全学の教職員が閲覧可能となった。現在は全学会議資料、東京大学規則集等を掲載。順次コンテンツを充実させていく。

2. 縦割り業務の解消

目安箱の設置



総長・理事が教職員からの要望を直接受け付けるため設置。平成19年3月までに101件の投書があり、匿名投書以外はすべて回答している。

部局パートナー制度

本部の管理職を部局ごとのパートナーとして指名し、部局からの質問に対してワンストップサービスを実現した。Q&AはHPで公開中。

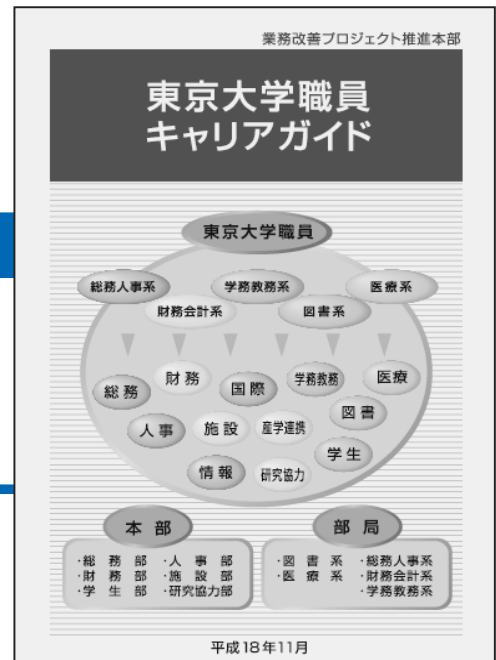
分野ネットワーク制度

全学に関わる新規事項の発案などに際して本部のグループ長があらかじめ部局に出向いて相談する分野ネットワーク制度を構築した。

3. 企画立案業務への転換

「東京大学職員キャリアガイド」の作成

全学の全分野の業務内容、能力・知識についてまとめた。自己研鑽のための資料、キャリア形成のための資料として活用するために、全職員に配布した。また、全国大学版としても販売予定である。（平成19年5月予定）



■問い合わせ先：業務改善グループ（経営・企画系）

内線：21042、82395

Mail：gyoumukaizen@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

HP：http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/gakunai/gen/gen6/index_j.html

NEWS

春の紫綬褒章受賞

大学院経済学研究科・岩井克人教授、大学院工学系研究科・藤野陽三教授が、本年春の紫綬褒章を受章いたしました。

岩井克人 大学院経済学研究科・経済学部 教授

岩井克人教授は、永年にわたり、経済学、特に経済理論の分野の研究、教育に努めてきました。その研究の特徴は、学界の多くの理論家をもってしてもその重要性はわかりつつも、困難さゆえにしり込みしてしまうようなテーマについて、長期間にわたって執拗に研究を続け、多くの学者に祝福されるような業績に結びつけた点にあります。



その代表と言えるのが、「不均衡動学の理論」で、マクロ経済理論の研究において、経済を安定した長期均衡の状態にあると捉えるのではなく、均衡への調整過程の連鎖の状態にあるという理論の開発に力を入れ、シュムパータ一流の経済モデルの開発に貢献しました。この理論は現実との関係という点では、持続的なインフレーションやデフレーション等の現象の解明の基礎となるものです。また、企業を所有関係とする古典的な企業理論の復権を図り、株式会社の中核に二重の所有関係を見出す新たな株式会社論を展開し、企業の理論についても多大な貢献をしています。貨幣の理論についても、サーチ理論的な枠組みを用いて、貨幣を自己循環論法的に捉えるという新たなアプローチを提唱しました。

岩井教授のこうした深い思考は多くの若手研究者をひきつけ、また、難解な理論を平易にしかも味わいのある文体で解説するという優れた能力で、学界の外にも多くの彼の支持者を集め、こうした範囲まで経済理論を普及させた点においても重要な貢献をしています。

岩井教授はこれらの業績に対して、日経図書文化賞・

特賞、サントリー学芸賞、小林秀雄賞等数々の受賞に輝いており、その他の活動としては、Journal of Evolutionary Economics, Structural Change and Economic Dynamics等様々な国際誌の編集にも当たりました。また東京大学経済学部内では、経済学部長として国立大学の法人化を進める中で、経済学部内に二つのCOEプロジェクトを獲得することにも成功し、基礎的な経済理論の発展、その普及に尽くしたその功績はまことに顕著です。

(大学院経済学研究科長・経済学部長 植田和男)

藤野陽三 大学院工学系研究科・工学部 教授

藤野陽三教授は、永年にわたって社会基盤構造安全学の教育研究に努め、地震・風等の環境外乱と、交通を含む社会経済活動に伴う人的外乱に対して、俯瞰的な立場から構造・環境相関モデリングと構造システムのセンシング、さらにその制御に先進的な研究業績を挙げてこられました。振



動抑制技術を科学的予測に基づく構造制御学に発展させ、国際学会の設立まで導かれました。これらの業績が今回の受章につながりました。波動・振動は藤野先生の研究の色合い、ともいえるものです。風工学・橋梁工学・地震工学を出発点にして、環境・維持管理・ヘルスマニタリングへと、工学の大きな波を主導されました。

藤野先生は卓抜なる直感と熱意と実行力に裏打ちされた技術者でもあります。大型橋梁や高層ビルの動的制御技術である液体同調ダンパーや、風環境予測システム等の最新技術を世界に先駆けて開発されました。これらの成果は世界的にも活用されています。現在、アジア構造工学会議の議長、世界構造制御学会理事、最年少の国際構造工学会副会長を務めるとともに、海外基盤整備プロジェクトの技術アドバイザーに就任するなど、International professional engineerとしての顔も併せ持っています。ロンドンのテムズ河に架かるミレニアムブリッジは、歩行者による振動で緊急閉鎖されことで一躍、世界的に有名となりましたが、これを事前予見し、かつ実際にロンドンに飛んで振動を止めるのに一肌脱いだのも藤野先生でした。また、東京大学で最初の英語による留学生教育プログラムを25年にわたって主導され、藤野先生のもとで博士と修士の学位を得た留学生は60名を超え、アジア、アメリカ、欧州で大学教員や技術者、技術行政官として活躍していることも藤野先生を語る上で欠かせません。笑顔の絶えることなく、温厚にして実直、責任感に富み、多くの後輩をリードされています。

現在、災害事故に対する都市社会基盤リスクの軽減と

制御を目的に、これまでに培ってきた事前予測技術と、事中・事後対策までを含めた知動化セキュア空間概念を提唱し、その実現にむけて鋭意努力を傾注されています。今後益々のご発展とご健勝を祈念してやみません。

(大学院工学系研究科・工学部 教授 前川宏一)

部局 ニュース

大学院農学生命科学研究科・農学部

技術基盤センターの設置

3月26日(月)、農学部2号館201号室に「技術基盤センター」の看板が掲げられた。技術基盤センターは、農学生命科学研究科の12番目の附属施設として昨年4月に設立され、徐々に組織体制が整えられてきた。センターを構成する11名の技術職員は、弥生キャンパスを中心に、放射性同位元素施設・バイオトロン・放射線育種場共同利用施設・小石川樹木園・先端機器分析室や専攻の研究室に配属されている。



生源寺眞一現研究科長(一番左)
會田勝美研究科長(当時)(後列左から3番目)
渡部終五センター長(後列左から4番目)と技術職員

『中期目標』は、「中長期的な観点から優れた技術職員の確保やその能力の一層の向上等を図ることにより、先端的な研究教育の技術面におけるサポート体制を強化し、農学生命科学研究科・農学部の研究教育の高度化と効率化を推進する」ことをうたっており、センターもその重要な一翼を担う組織となる。

センターの技術職員一同は、技術力をなお一層高める

とともに、組織体制や情報の受発信の充実を図りながら、農学生命科学研究科・農学部の頼りがいのある組織としての発展に向けて、心を新たにしている。

大学院総合文化研究科・教養学部

三鷹国際学生宿舎で「新入宿舎生歓迎会」開催される

4月8日(日)、三鷹国際学生宿舎の共用棟ホールにおいて、宿舎内の自治組織である宿舎生会(宿舎に居住する全学生を構成員とする組織)と院生会(留学生の宿舎生活を支援する日本人大学院学生によるチューター組織)との共催により、4月に入居した新入宿舎生の歓迎会が行われた。

この催しは、春に入居する新入学部学生、留学生を主な対象とし、国外や地方等から移り住んできたばかりの新宿舎生同士の交流を目的とするもので、毎年開催されている。当日は80人の留学生を含む約250人の宿舎生が参加し、会場は参加者であふれかえった。



多くの人が集まった会場

長谷川壽一教養学部副学部長、OB会代表、宿舎生会委員長による挨拶の後、院生会幹事長の乾杯によって会がスタートした。会場にはピザや寿司などの軽食も用意されたが、食欲旺盛な若者が多数集まっていることもあり、提供されたテーブル上の食べ物が一瞬のうちに無くなる光景も見られた。その後OB会から食べ物の差し入れが振舞われ、入居したばかりの学生たちは立食形式の会で交流を深めていた。引き続きプロジェクターを使ったクイズ大会が、会場に設置されているテーブルごとにチームを作って回答するチームワーク形式で行われ、各チーム内では、回答について議論をする新宿舎生の真摯な表情が見受けられた。

三鷹国際学生宿舎ではこのような交流イベントが定期的に開催され、日本人学生と留学生との活発な国際交流の場となっている。



長谷川教養学部副学部長からの挨拶



クイズの問題を出している司会者

生命科学教育支援ネットワーク
第4回「東京大学の生命科学」
 部局 シンポジウム

4回目を迎えた「東京大学の生命科学」シンポジウムは、明るい日差しに恵まれた4月14日（土）、東京大学創立130周年記念事業の一環として、安田講堂で開催されました。



小宮山総長 開会挨拶

本学では15にのぼる部局で多岐にわたる生命科学の研

究と教育が行われていますが、その全容を知ることは困難です。本シンポジウムは、本学の研究者自身が東京大学で行われている幅広い生命科学研究を知るための試みから始まったものです。回を重ねるごとに参加者が増加しています。今回は記帳者だけでも約750名（うち学外者が約半数）にのぼり、安田講堂の2階席も多くの聴衆で埋まりました。

例年どおり広い範囲をカバーする話題を含むシンポジウムは、生命科学者がその立場からきちんと成果と意義を語ることの重要性を説く小宮山宏総長の開会の挨拶で始まり、8研究科5研究所の代表が講演を行いました。



講演の様子

ゲノム科学を越えた個体レベルの議論があたりまえになったこと、生命の持つ法則の精緻さや奥深さが如実に見えるようになった結果、生体の高次現象をあやつるシステムの重要性がますます強調され始めていることが、全体を通して感じられました。各講演に対して、大学院生と思われる若い方々からの質問が相次いだことがとても印象的でした。最後に、生命科学教育支援ネットワークを長年にわたって牽引しておられる浅島誠理事・副学長の挨拶で閉会となりました。



質疑応答の様子

今年度の新たな試みとして、講演者の顔写真入り要旨集を作成いたしました。多彩な講演内容を振り返って理解を深める上で大変役立ったとの声がきかれました。

その後、山上会館で懇親会を行いました。シンポジウム同様、懇親会も重要な交流の場となりました。

本シンポジウムの主旨のひとつは、大学院進学先を考慮している学内外の学生に対して本学で行われている幅広い生命科学研究に関する情報を提供することです。そのために今回も昨年に引き続いて各研究科・研究所を紹介するブースを設置してパンフレットなど資料を配布いたしました。数百部用意された資料が無くなる程の盛況ぶりでした。有志の手弁当で始まったシンポジウムですが、生命科学教育支援ネットワークの設立に伴い組織基盤も確固としたものとなり、今後もこのシンポジウムが本学の生命科学系研究者の情報交換、生命科学に興味を持つ学内外の大学生、大学院生、さらには市民の方々への情報の提供の場として、発展して行くものと思いません。



各部局紹介のブース

最後に、御講演いただいた演者の方々、開催の準備に御尽力いただいたサステナビリティ学支援グループの皆さん、大学院薬学系研究科の教員・大学院生の皆さんに感謝申し上げます。

以下にプログラムを示します。

プログラム

10:00～10:10 開会挨拶 小宮山 宏 総長

<座長：満洲邦彦／大学院情報理工学系研究科>

- 10:10～10:30 「脳はどのように言語を生み出すか」
大学院総合文化研究科 酒井 邦嘉
- 10:35～10:55 「生命の科学と人間の学問」
大学院人文社会系研究科 島菌 進
- 11:00～11:20 「数理手法でゲノムと脳の情報処理を理解する」
生産技術研究所 合原 一幸
- 11:25～11:45 「生き物のからだを刻む分節時計」
大学院理学系研究科 武田 洋幸

- 11:50～12:10 「カイコのゲノムから読みとる昆虫の進化」
大学院農学生命科学研究科 嶋田 透
- 12:10～13:30 休憩

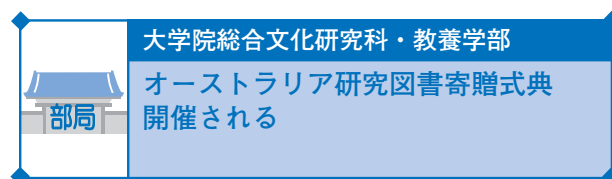
<座長：長澤寛道／大学院農学生命科学研究科>

- 13:30～13:50 「地球の一部としての海洋生物資源の変動」
海洋研究所 渡邊 良朗
- 13:55～14:15 「植物細胞のバイオイメージング」
大学院新領域創成科学研究科 馳澤 盛一郎
- 14:20～14:40 「発癌の分子機構:複製開始因子 Cdc6の役割」
大学院医学系研究科 岡山 博人
- 14:45～15:05 「神経細胞を作る仕組み」
分子細胞生物学研究所 多羽田 哲也
- 15:05～15:30 休憩

<座長：福田裕穂／大学院理学系研究科>

- 15:30～15:50 「ビタミンE:遺伝病からマラリアまで」
大学院薬学系研究科 新井 洋由
- 15:55～16:15 「ゲノム情報から創薬へ」
医科学研究所 古川 洋一
- 16:20～16:40 「スーパー制限酵素を用いる巨大DNAのマニピュレーション」
先端科学技術研究センター 小宮山 真
- 16:45～17:05 「ナノバイオテクノロジーが拓く未来医療:ピンポイント診断・治療のためのナノデバイス設計」
大学院工学系研究科 片岡 一則
- 17:10～17:20 「閉会の挨拶」 浅島 誠 理事・副学長、
前生命科学教育支援ネットワーク長

生命科学教育支援ネットワークのホームページ (<http://www.lse.u-tokyo.ac.jp/activities/biout2007/>) にて当日の様子や、要旨集 (PDF) がご覧いただけます。



豪日交流基金によるオーストラリア研究図書コレクションの寄贈を記念して、4月27日(金)11時より、本学大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センターの図書室において、寄贈式典が開催された。

アメリカ研究資料センターを前身とする同センターは2000年に研究対象をオセアニアを含む太平洋地域に拡大したが、豪日交流基金は日本におけるオーストラリア研究へのセンターの貢献を顕彰し、今後の研究促進を奨励する目的で、今回の図書寄贈を決定した。

当日はマクレーン駐日オーストラリア大使、ミラー公使をはじめとする大使館および豪日交流基金関係者、報

道関係者を迎え、本学からは小島憲道総合文化研究科長、西中村副研究科長、センター教職員、院生、学部生など、40名を超える参加があった。冒頭で小島研究科長が歓迎の挨拶を行い、マクレーン大使によるスピーチのあと、大使より能登路雅子センター長に寄贈図書目録が贈呈された。

今回寄贈された図書は、歴史、社会科学分野を中心に約400点におよぶ。近年、多文化主義、移民政策をはじめ、経済、現代文学および芸術など、日本におけるオーストラリアへの学術的関心が高まっており、当センターに対する大規模な図書寄贈によって、オーストラリア研究の一層の発展が期待される。



オーストラリア研究図書寄贈目録を能登路センター長に贈呈するマクレーン駐日オーストラリア大使



アメリカ太平洋地域研究センター玄関にて左端よりキング豪日交流基金日本事務局長、能登路センター長、マクレーン駐日オーストラリア大使、小島総合文化研究科長

医学部附属病院 医学部附属病院にマッサージ室がオープン

医学部附属病院では、5月1日（火）に職員専用のマッサージ室「リフレッシュルーム」をオープンした。

リフレッシュルームは、バリ島風のアジアテイストを演出しており、アロマキャンドルの灯りと香りに加え優しい音楽にも包まれ、心と身体が癒されるように工夫されている。

また、スタッフには、あん摩マッサージ指圧師の資格を有する視力障害者を5人雇用し、職員の多様な勤務形態にも対応できるようにするとともに、専任の事務職員を配置し受付業務に円滑さを確保するなど、全体として利用者サービスに重点をおいたものになっている。

病院は身体疲労やストレスが蓄積しやすい労働環境にあるため、この解消策の一つとしてリフレッシュルームが設置されたもので、利用者からは「心身共にリラックスできた。是非また利用したい」と好評を得ている。

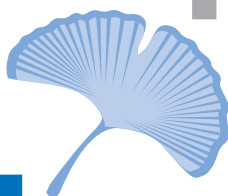


施術室の様子



スタッフの方々

キャンパス ニュース



キャンパス

学生部

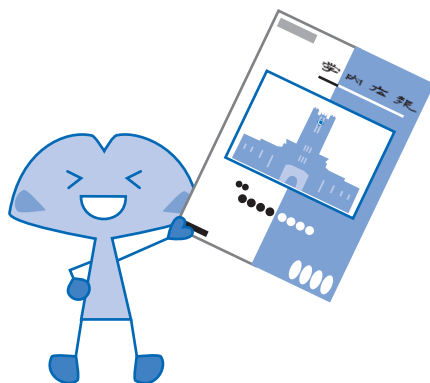
平成19年度入学者数、決まる

平成19年度新入生の人数は、次の通りである。

科 類	募集人員	合 格 者 数			入 学 辞退者数	入学者数	募集人員 との差	定員外の入学者数		入学者 総 数
		一般選抜	特別選考 (第2種)	合 計				国費留 学生等	特別選考 (第1種)	
文科一類	415 (415)	415 (416)	7 (9)	422 (425)	0 (1)	422 (424)	+7 (+9)	3 (4)	1 (1)	426 (429)
文科二類	365 (365)	366 (366)	5 (3)	371 (369)	0 (0)	371 (369)	+6 (+4)	3 (2)	5 (4)	379 (375)
文科三類	485 (485)	488 (489)	3 (4)	491 (493)	0 (2)	491 (491)	+6 (+6)	6 (6)	2 (2)	499 (499)
理科一類	1,147 (1,147)	1,170 (1,170)	3 (3)	1,173 (1,173)	5 (3)	1,168 (1,170)	+21 (+23)	16 (16)	4 (5)	1,188 (1,191)
理科二類	551 (551)	568 (569)	4 (5)	572 (574)	9 (2)	563 (572)	+12 (+21)	3 (2)	2 (3)	568 (577)
理科三類	90 (90)	90 (90)	0 (0)	90 (90)	0 (0)	90 (90)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	90 (90)
合 計	3,053 (3,053)	3,097 (3,100)	22 (24)	3,119 (3,124)	14 (8)	3,105 (3,116)	+52 (+63)	31 (30)	14 (15)	3,150 (3,161)

(注) 1. ()内は、昨年度を示す。

2. 国費留学生等の人数には、国費留学生の他に政府派遣留学生、日韓共同理工系学部留学生を含む。



バリアフリー支援室の将来

バリアフリー支援室 特任専門職員
伊藤 聡知さん

現在、東京大学バリアフリー支援室は、バリアがあって支援を必要とする学生・教職員へ、様々な支援を行っています。幸い、技術の進化と、東京大学の多くの教職員や学生、そして、学外の支援者などの大きな理解と協力のおかげで、多くの支援は順調に進んでいます。

東京大学のバリアフリー化という面については、特にここ数年、大きな進化を遂げています。車いすユーザーはエレベーターを使い必要な教室へ移動することが可能となり、視覚障害者は、点訳や拡大文字化された教材を使って勉強し、研究をすることが可能となりました。

では、将来の東京大学は一体どうなっているのでしょうか？ 全ての建物にはエレベーターや車いす用トイレ等が完備され、身体の移動に不自由を感じている人は、その不便さが大幅に軽減されるでしょう。また、書籍は機械に

よってさらに正確に点字化や拡大文字化され、視覚障害者や老眼で文字を見るのに不便を感じている人も楽に文章を読むことができるようになるでしょう。そして、話し声は機械により瞬時に正確に文字起こしと漢字変換がなされるようになり、携帯発話機ができれば、聴覚障害者がコミュニケーションに不便を感じることはなくなるでしょう。そのような時代が間違いなく来ると私は確信しています。

そうすると、バリアフリー支援室の仕事がなくなり、消えてしまうのではないかと懸念もありますが、決してそんなことはありません。バリアフリー支援室のコーディネーターの役割は、支援を必要とする障害をもった学生・教職員へ、その人のニーズにあった支援の情報を提供し、支援が円滑に進むよう様々な人間関係を調整したり、各種の準備をすることです。バリアフリー支援室のコーディネーターは、人間だからこそできる細やかな支援の提供、調整、準備などを行っているのです。これは、将来どんなに機械が発展しても、人間にしかできないものなのです。

いい仕事してますねー

大学院総合文化研究科・教養学部共通技術室 技術専門職員
大庭 義秋さん

駒場キャンパスには、毎年、学部・大学院約4,000人の学生が入進学してきます。中にはいろいろな障害を持つ学生もおり、教養学部教務課では、学生支援課やバリアフリー支援室と連携を取りながら、科目履修がスムーズに行えるよう、個々の学生の障害に応じた対応を行っています。

身体に重度の障害のある学生が授業科目を履修するためには、特殊な机や椅子が必要とされる場合がありますが、市販品に合うものはないため、その対応に苦慮することもしばしばです。しかし、駒場には共通技術室という素晴らしい技術者の組織があります。困ったときに無理難題を解決してくれるのが、そこに所属する技術専門職員の大庭義秋さん（写真）です。大庭さんが座っている机は、本シリーズ第4回目でも紹介された徳永健太さんが教養在学中に使用していたものですが、これはもちろん大庭さんが製作した、堅牢かつ移動がしやすいように盤面を折りたたむこともできるオリジナル作品です。ほかにも、これまでに、身体運動実習で使う握力の弱い人でも使用できる卓球ラケットや、特製筆記具ホルダー等、いろいろな優れたものが作り出されてきました。まるで、ドラえもんのようなのです。これらの器具は、使用する学生との入念な打ち合わせのもとに製作されているため、利用者の評判が上々なことはいまでもありません。

大庭さんは、「普段は学生実験・実習などの機材を製作したり、研究者の研究上の材料などの製作を行っています。バリアフリーの特殊器具の作成は、学生と共に作り上げているといった一体感があり、何よりもでき上がった器具を使った

学生の満足そうな笑顔を見るとつい自分も頬が緩み、製作に挑戦してよかったという達成感と、何ともいえない気分になります。これからも大いにリクエストにかなうもの作りをしていきたいと思っています」と、非常に心強いかぎりです。

この4月に徳永さんはめでたく本郷の法学部に進学しましたが、特製の机と一緒に「進学」しましたので、今度は本郷で活躍する特製機の「勇姿」を目にする機会もあるはずですよ。その際には、確かな技術でバリアフリーの現場を支える大庭さんのことも、是非思い出してください。

(文責：教養学部等教務課)



自作の特製機の座り心地を確かめる大庭さん

<東京大学バリアフリー支援室 連絡先> E-mail: spds-staff@mm.itc.u-tokyo.ac.jp

本郷支所(理学部旧1号館135号室): TEL 03-5841-1715 FAX 03-5841-1717

駒場支所(先端科学技術研究センター3号館503号室): TEL: 03-5452-5067 FAX: 03-5452-5068

共同研究契約の現状とお願い

共同研究契約の概要

産業界との共同研究は法人化前も活発に行われてきていましたが、法人化を機に、企業等との間で契約内容を個別に取り決めるようになり、更に増加の傾向にあります。具体的には、17年度の共同研究件数は850件で、研究費は約41億円でした（18年度の共同研究のデータは現在集計中）。

共同研究契約の内容が本学の雛形どおりであれば、各部局で契約締結を行っていただいておりますが、雛形と異なる場合は、各部局の研究協力担当を通じて、産学連携本部に照会いただき、必要に応じて、ご相談を受け、企業等との交渉に対応させていただいております。

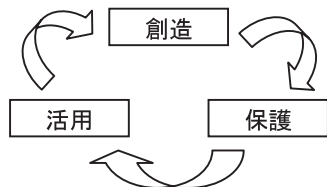
上述のとおり、法人化以降、共同研究契約の内容を大学と各企業が個別に取り決めるようになったことに伴い、各企業から様々なご意見やご要望を頂戴するようになりました。そして、その対応に時間を要し、結果的に、契約の締結、研究の開始が遅れる事例も存在しました。

現在では、各企業とのこれまでの議論の積み重ねがありますので、案件の停滞はほとんど無くなりました。その一方で、新規企業との契約締結や新たな要望も出てきておりますが、本学としては、以下の3点を主要なスタンスとして保持しつつ、契約交渉に臨んでおります。

- * 研究の推進
- * 大学として一枚岩での対応
- * 知的財産サイクルの構築

研究契約のスタンス

産学連携を持続的に成功させるには、知的財産サイクルを、大きなスパイラルとして描いていくことが必要です。つまり、良い研究を行う → 研究で得られた成果を適切に保護・管理する → それを企業等へ技術移転する → それにより得られた収入を次の研究等に充当していくというスパイラルの実現です。



一方、企業は、自社の利益の最大化を目指しますから、大学に対する支払をできる限り抑制したいと考えます。つまり、産業界と大学との間では利害が対立します。なお、産業界からの要望は、利益に直接関わることに以外に、得られた成果の取扱いや公表時期等の場合もあります。

これらの、産業界と大学との意見の対立を、契約交渉により解決していくのですが、契約交渉の場合、そう簡単に、利害を足して2で割るといっても行きません。よって、最も重要なのは、お互いの考えやその考えの背景にある事情を理解し合うというプロセスです。具体的には、文書やメールのやり取りだけでなく、直接お会いして、業界特性、当該企業のポジショニング（大企業なのかベンチャーなのか）、知財戦略、今回の研究の目的、想定される研究成果等を伺い、大学の公共性等の説明を行い、綿密に話し合っ互に相互理解を図ることに努めます。

また、共同研究の成果を出願する際の窓口となるTLOとも密に連携し、大学のスタンスとしての一貫性を確保することにより、産業界からの信頼を損なわないよう留意しております。

このような積み上げの結果、相互理解が進み、大手企業においては企業毎の個別の雛形作成といった対応も行っております。今後も、これまで以上に迅速かつ円滑な契約締結が実現できるよう努めてまいります。

学内研究者の皆様へのお願い

共同研究契約を行う際に、学内研究者の皆様へお願いしたいのは、皆様と考えておられることと契約内容が一致しているかの確認です。具体的には、以下のような点にご留意頂きながらご確認頂ければ幸いです。

- * 研究成果を相手企業に独占させても良いか（相手企業に独占させた場合、他の企業との類似の共同研究が出来なくなってしまう可能性があります）。
- * 学生が共同研究に参加される場合、学生の権利が確保されているか（学生の論文発表等に制約がかかる虞がないか、等）。
- * 研究成果を活用して相手企業が収入を得た場合、収入の分配を強く要求するか。
- * 大学側から特別な扱いを要する重要な秘密情報や貴重な研究試料を提供することがあるか。

共同研究が産業界に役立つことは重要ですが、学内研究者にとって有効でなければならないと考えており、皆様から頂戴するご要望は、極力研究契約に反映させるべく、各企業と交渉していきたいと考えております。

是非、忌憚のないご意見・ご要望をお寄せ下さい。

連絡先: 産学連携本部（研究協力部 産学連携課）
電話: 内線22857（外線03-5841-2857）
ホームページ: <http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>
※「東京大学トップページ」上で「産学連携本部」をクリック



インタープリターズ・バイブル、 インタープリターズ・サイエンス

岡本拓司

大学院総合文化研究科 准教授
科学技術インタープリター養成プログラム担当

大学に入って2、3年たったころ、ある集まりで新約聖書のヨハネ伝を原語で読むことになった。実際に始めるとすぐに後悔した。古典ギリシア語をかじったことがあったのは、13歳年上の先輩と、1年だけ第三外国語で学んだ自分だけで、月に1回あった集まりは、私が苦勞して作った解釈をその先輩が吟味するというものになってしまったからである。新約のギリシア語はプラトンやアリストテレスに比べれば易しいといわれるが、ほんの一文の理解に1時間くらいかかることもまれではなかった。

しかし、窮ずれば通ずで、あるとき、図書館の参考図書の一隅に重宝な本があることに気づいた。何冊もの英語の厚い本からなる全集で、開くと三段に分かれている。一番上が聖書の訳、二段目が文献学的な解釈、三段目には記述の背景や意図の解説が書かれていた。もちろんヨハネ伝の巻もある。至れり尽くせりの解説付きで、語学上の疑問はまず間違いなくこれで解消できた。さらに、ギリシア語の文体が1章18節までとそれ以降とで大きく異なることと内容との関連の説明があったり、話のつじつまが合わないところが編纂上の問題として指摘されていたり、一文に対して三つの解釈が可能であることを示しながらギリシア語の用例とユダヤ世界での語法についての条件で意味を確定する箇所があったりで、学問の蓄積の力の前に、腰を抜かすような思いをした。

先輩は訳読の様子が変わったのに気づき、何を参照しているのかと尋ねてきた。The Interpreter's Bibleですと答えると、説教者の聖書かという。説教者ではなくて翻訳者ではないのかと思っただが、ではなぜtranslatorといわないのだろうかとも考えた。

「科学技術インタープリター」という言葉を聞いて思い浮かべたのが、あの膨大な聖書の注釈書であった。信仰の書としての聖書への敬意と、歴史的な文書としての聖書に対する冷徹な分析は



インタープリタープログラムの
出前授業(フリスビー制作)

両立し、質の高い学問的成果を生み出してインタープリターの活動を支えている。科学技術という対象について同様の成果を生み出すことが、迂遠なようであっても、科学技術インタープリターの活動を支えるためには不可欠なのではないかと思う。

★科学技術インタープリター養成プログラム
URL:<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/STITP/>

調達本部です



第27回 運営費交付金の1%減 —大学への影響 大きい?小さい?—

平成19年度も早いもので既に2ヶ月弱が経過しました。法人化初年度の平成16年4月、5月は、業務処理が激変し、大変であったことを記憶しています。私たち会計担当は、今まで無かった複式簿記による処理が求められ、その混乱振りはかなりのものでした。しかし、法人化も4年目となると法人特有の会計処理も定着し、私の周辺でも順調に年度当初処理が進みました。

法人化後、定着したものは大学における会計処理だけではありません。大学への運営費交付金が毎年1%ずつ削られること。当然ですが、このことも毎年行われ定着しつつあります。この運営費交付金、国立大学全体でどれくらい減ったのかご存知ですか? 調達本部の調べでは国立大学86校を合わせると約370億円減少しました。

小規模の国立大学1校分の運営費交付金は年間30億円程度です。「370億円」の減少は小規模の大学10校以上が消えてしまう計算となります。また、この「370億円」という金額は旧帝大クラス1年間の運営費にも匹敵し、ノーベル賞受賞者を輩出した某大学の運営費をも超えてしまいます。こう考えると「たかが1%」ですが決して侮ってはいけぬ数字に見えてきます。この運営費の減は、海岸に打ち寄せる波のように毎年毎年大学に押し寄せてきます。この繰り返しにより、いつかは「大学」という陸地が大きく侵食されてしまうのではと心配するのは私たちの杞憂に過ぎないのでしょうか?

調達本部では危険が想定される海岸に早い段階で「堤防」を築こうとし、努力しています。「1%減」という寄せ来る波から東京大学が活動するフィールドを守り、現状の教育・研究を継続・維持することはもちろん、業務の効率化・目標の明確化により、教育・研究における新たな萌芽をも期待しています。

この「堤防」の役割を担うのが「UT購買サイト」や「UT試薬サイト」、また屋内清掃、複写機のサプライヤ集約など調達改善に向けた新たな取組です。「堤防」により「キレイな海岸線は見えなくなる」かも知れませんが、「さわやかな海風が吹いてこなくなる」ことも考えられます。今まで個々が受けていた様々なベネフィットは制限されます。しかし、この「堤防」の準備を早期に進めておかないと取り返しのないことになりかねません。

何れにせよ、運営費交付金の減少は他の国立大学と比べ大きなサイフを持っている「東大」をも確実に蝕んでいます。調達本部が率先する対策を理解してください。この問題の解決には部局と本部のコラボレーションが絶対に必要です。



調達本部連絡先 ☎21201 櫻井

コミュニケーションセンターだより No.33

■新商品のご紹介

「蓮香オードパルファム」「蓮香あぶらとり紙」を発売いたしました。

検見川の緑地植物実験所に咲いております「大賀蓮」の香りをサンプリングし、資生堂と共同開発いたしました。みずみずしく優しい香りのオードパルファムです。

古代蓮とも呼ばれる大賀蓮の、2000年の眠りから覚めた香り、ぜひ一度お試しください。



オードパルファム

- 販売価格
2,100円(税込)
- 容量：30ml

あぶらとり紙

- 販売価格
420円(税込)
- 100枚入

- 「蓮香(れんか) オードパルファム」
- 「蓮香(れんか) あぶらとり紙」

■出店報告

先月12日、日本武道館で行われました入学式に私どもコミュニケーションセンターも出店しに参りました！！

沢山の新生、ご家族の方々にお立ち寄りいただきました。

今回で3度目となる武道館での出店ですが、回を重ねる度にコミュニケーションセンターをご存知の方が増えているように感じ、嬉しい1日でした。



<売上げ個数ベスト5>

1位	ボールペン
2位	シャープペン
3位	チャーム付ストラップ
4位	キーホルダー
5位	蓮香オードパルファム

(担当：コミュニケーションセンター 吉岡)



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10：30～18：30
電話：03-5841-1039
http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp

ワタシのオシゴト 第13回

Rings around the UT

学生部学生課体育チーム

山口 剛さん

山口、大いに語る？

平成16年4月に就職以来、今年の春で4年目に突入しました。まだまだ新米ですが私なりに今の仕事について話せるようになった、そんな今日この頃です。

現職に着いたのが16年7月。与えられた任務は主に二つ。

まず、学業との両立が大変な中でも東大の名を背負い頑張る運動部諸君の活動支援。そして御殿下記念館をはじめとして都内・関東圏内に点在する課外体育施設の運営管理です。

どちらも大学業務の中では一風変わってますが、運動部活動をいかに盛り上げていくか、学生にどんな課外活動サービスを提供できるかなど、既に仕切られた仕事ではなく自分の発想でどんどん広がっていく、学生ともじかに接する今の仕事は日々やりがいを感じます(いや本当に)。

皆さんも機会があれば運動部の様子を見に来てはいかがでしょうか？国公立大学のなかでは屈指の実力を持っています(担当者の臍原目じゃないです)。全国区で活躍している部も少なくありません(男子ラクロス、ヨット、漕艇etc)。手近なところで神宮球場で六大学野球観戦なんていかがでしょう(本学野球部頑張ってます)。

しかし、私の仕事もこの大学業務の中では隅の隅。この広い大学の仕事を極めるにはおそらく何年あっても足りない気がします。

しかし、だからこそ大学の仕事は面白い。そんな気がする今日この頃です。



御殿下グラウンドは俺の庭



御殿下受付の方(三上さん)と

出身地：三重県四日市市

自分の性格：

熱しやすく冷めやすい
気まぐれ男

血液型：B型

次回執筆者のご指名：

飯島宣之さん

次回執筆者との関係：

16年度採用組の偉大なる
指導者

一言紹介：

時代の“先端”を行っている男です。



なんじゃもんじゃ!?

本郷キャンパスに春到来! ハクモクレン・サクラ・ハナミズキを眺め楽しんだあと、待ってました! とばかりの開花があります。さてと…、どんなもんじゃ?

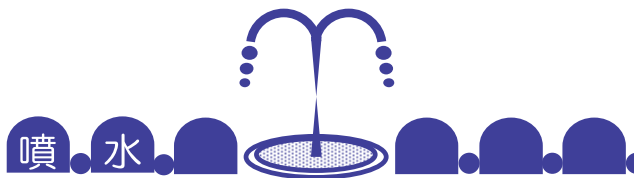
それは市内では珍しい樹、その名は **ヒトツバタゴ**。別名:**ナンジャモンジャ**です。「今年も咲きましたね」今日もお客様とそんな言葉を交わして顔をほころばせましたが、初めてその名を聞いた時は、あまりに妙で思わず笑ってしまいました。調べてみると、図鑑や本にちゃんと載っています。【ヒイラギ科にヒトツバタゴという喬木がある。美濃や尾張地方に稀に野生があり、対馬にも自生があるというが、日本には自生が極めて少なく、中国や朝鮮に多く自生している。時々神社や人家に栽植されたのを見ることがあるがこれも多くはない。そんなわけだから、この木の名を知っている人は少なく、ナンジャモンジャと呼ばれた木の一つである】花の色は白で、樹冠が雪で覆われているように見えます。この時期には、この樹を目当てにキャンパスを訪れる方も多そうですね。本郷のナンジャモンジャは、隣合わせのセイヨウトチノキが、ピンク色の花を咲かせていて、紅白のコントラストがとてもきれいです。その場所は、安田講堂から南側へ降りたところ、以前にご紹介しました「ポンプ」の横(東側)になります。

構内に「たった1本」ということからか愛着を感じて、毎年楽しみにしています。大事に見守られていきますように…。さて、この学内広報が配布される頃には、花は咲き終わっているでしょうけれど、興味をもたれた方、どうぞ来年まで覚えていてくださいね。よろしければ、ご一緒にお花見していただけますか? <*花の時期は初夏*>

参考文献

『なんじゃもんじゃ
-植物学名の話-』
図鑑の北隆館
上村 登

樹に掛けられた
プレート



「第7回高校生意見発表会」でシリウス賞受賞

3月21日(水)、跡見学園中学校高等学校・小講堂で開催された「第7回高校生意見発表会」において、「卒業研究を通して学んだこと」について教育学部附属中等教育学校6年生の石川貴裕君・沼部晃宏君・鈴木涼太君がグループ発表を行い、初出場で第2位にあたるシリウス賞を受賞した。

卒業研究とは、1・2年生の総合学習入門、3・4年生の課題別学習の集大成として個人でまとめる研究であることを説明した。

石川君は、現地調査の重要性を述べ、沼部君は、卒業研究で学んだことを卒業後の進路の看護の道で生かしていくことを伝えた。また、鈴木君も、将来の夢である水族館についての研究を発表した。

審査委員長の日本大学教授の渡部淳先生は、「非常に良く練られた構成かつ精選された内容であった」と講評を述べた。

パワーポイントを用いた発表であり、3人とも講堂のステージの上で発表できたことは良い経験となった。



発表の様子

(教育学部附属中等教育学校)

INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

医科学研究所

第34回医科学研究所創立記念シンポジウム 「医科学研究最前線」

医科学研究所では、伝染病研究所から医科学研究所への改組を記念して、毎年、創立記念シンポジウムを開催しており、今年は以下のとおり実施します。

皆様のご来場をお待ちしています。(参加費無料)

日時：6月1日(金) 13:00～17:40

会場：医科学研究所 講堂

プログラム

13:00～13:10 開会挨拶 所長 清木 元治

13:10～13:50

1. 「かたち」を創るRNA-基礎から創薬へ
中村 義一 教授
(基礎医科学部門 遺伝子動態分野)

13:50～14:30

2. 蛋白質リン酸化シグナルからみる癌・細胞増殖
山本 雅 教授
(癌・細胞増殖部門 癌細胞シグナル分野)

14:30～15:10

3. パンデミック・インフルエンザ-過去と未来-
河岡 義裕 教授
(感染・免疫部門 ウイルス感染分野)

15:10～15:30 休憩

15:30～16:10

4. 疾患モデルを用いた自己免疫発症機構の解析
岩倉 洋一郎 教授(ヒト疾患モデル研究センター
細胞機能研究分野)

16:10～16:50

5. ゲノム医科学からゲノム医療へ
中村 祐輔 教授 (ヒトゲノム解析センター
ゲノムシーケンス解析分野)

16:50～17:30

6. 医科研病院における細胞移植医療の
過去・現在・未来
東條 有伸 教授
(先端医療研究センター 分子療法分野)

17:30～17:40 閉会挨拶 副所長 井上純一郎

問合せ：医科学研究所大学院事務室(内線72045)
gakumu@adm.ims.u-tokyo.ac.jp

お知らせ

お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

「教養学部報」第502(5月2日)号の発行 ——教員による、学生のための学内新聞——

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、15号館ロビー、図書館ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

第502(5月2日)号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

村松真理子：

「コマバとイタリア」の春

——まずは「創造の広場 イタリア」展にどうぞ……

下井守：

碧素と一高生

大築立志：

A R Tする身体

——第14回身体運動科学シンポジウムを終えて——

能登路雅子：

アメリカ太平洋地域研究センター紹介

広がる太平洋世界

斎藤晴雄：

新しい基礎物理学実験と教科書

教員紹介〈後編〉：

広域科学専攻＝広域システム科学系／数学／美術博物館／留学生相談室／アメセン／教養教育開発機構／学生相談所／進学情報センター／国際研究協力室／AIKOM／DESK／保健センター

〈後期課程案内〉

山田広昭：超域文化科学科

越境の知性って何だろう？

村田雄二郎：地域文化研究学科

ローカリズムとグローバリズムの往還

——「地域」への問い

中西徹：総合社会科学科

複雑な現代社会のメカニズムを解明しよう！

小宮山進：基礎科学科

モダン・タイムスを越えて

伊藤元己：広域科学科

自然界や人間社会の複合的問題の解決に向かって

池内昌彦：生命・認知科学科

生命科学のこれからを担う

〈本郷各学部案内〉

清水孝雄：医学部へ進学する皆さんへ

生命の謎と病気への挑戦

保立和夫：工学部の多様性と専門性

立花政夫：文学部への誘い

理数系辞典案内：

菊地文雄／玉井哲雄／大築立志／下井守／加藤雄介／

松田良一

お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

教養学部で111回オルガン演奏会の開催

教養学部では、恒例のオルガン演奏会を次のとおり開催いたします。このたびは、本演奏会でおなじみの、アメリカの世界的オルガニストであるコリン・アンドリュースさん、ジャネット・フィシェルさんをお迎えし、バロック期のブクステフーデ、バッハから20世紀のハウエルズに至る数々の曲の独奏と息のあった連弾とお楽しみいただきます。どうぞご期待ください。

入場は無料です。ホームページを開設しておりますので、ぜひご覧ください。

<http://organ.c.u-tokyo.ac.jp>

日時 6月28日（木）18:30開演（18:00開場）

場所 教養学部900番教室（講堂）

曲目

J・S・バッハ

ブランデンブルク協奏曲 第三番 ト長調 より
第一楽章（J・フィシェル編曲）（BWV 1048）[連弾]

D・ブクステフーデ

前奏曲 ト短調（BuxWV 149）[独奏：フィシェル]

J・S・バッハ

『十八のコラール集』より

「いと高きところには神にのみ栄光あれ」

ト短調（BWV 663）[独奏：フィシェル]

D・ブクステフーデ

前奏曲 嬰へ短調（BuxWV 146）[独奏：フィシェル]

T・トムキンス

二人の奏者のためのファンシー [連弾]

J・S・バッハ

前奏曲とフーガ ト長調（BWV 541）

[独奏：アンドリュース]

H・ハウエルズ

詩篇前奏曲 [独奏：アンドリュース]

P・パターソン

トッカータ「蛍光」 [独奏：アンドリュース]

P・I・チャイコフスキー

バレエ組曲『くるみ割り人形』より

「花のワルツ」（J・フィシェル編曲）[連弾]

演奏

コリン・アンドリュース（オルガン）

ジャネット・フィシェル（オルガン）

（大学院総合文化研究科・教養学部オルガン委員会）

お知らせ

史料編纂所

画像史料解析センター開設10周年記念研究集会 「画像史料研究の成果と課題」開催のお知らせ

1997（平成9）年に開設された史料編纂所附属画像史料解析センターは、2007（平成19）年4月をもって開設10周年を迎えました。本所では、これを記念し、次の要領にて研究集会を開催いたします。

日時 6月29日（金）13:00～17:00

会場 山上会館2階大会議室

内容（いずれも仮題）

ご挨拶 横山伊徳（史料編纂所長）

講演

黒田日出男氏

（立正大学教授、元画像史料解析センター長）

「洛中洛外図の新出本と林原本」

講演

青山宏夫氏（国立歴史民俗博物館准教授、

画像史料解析センター客員教員）

「古地図研究の方法と課題」

特別講演

王勇氏

（中華人民共和国・浙江工商大学日本文化研究所長）

「倭寇図巻と抗倭図巻」

報告 画像史料解析センタープロジェクト報告

①古写真プロジェクト（保谷徹）

②荘園絵図プロジェクト（石上英一・西田友広）

③肖像画プロジェクト＋一遍聖絵プロジェクト

（藤原重雄）

④近世儀礼プロジェクト（小宮木代良）

⑤花押彙纂プロジェクト＋崩し字プロジェクト

（林譲・井上聡）

報告 画像史料解析センターの成果と課題

（画像史料解析センター長 林譲）

全体討論

参加をご希望される方は、当日、直接会場までお越しください。あらかじめ参加ご希望の旨をメールまたはファックスでお知らせいただければ幸いです。

問い合わせ先：

画像史料解析センター開設10周年記念事業実行委員会

委員長 林譲

(hayashi@hi.u-tokyo.ac.jp)

幹事 末柄豊

(suegara@hi.u-tokyo.ac.jp)

FAX 史料編纂所事務室（03-5841-5956）

＝特集テーマ&執筆部署募集告知＝

特集の記事を 執筆してみませんか？

学内広報では巻頭特集の記事テーマとその執筆部署を募集しています。学内への周知を図るためのツールとして特集はとても効果的です。皆さんの部署でも、ぜひ特集の記事を執筆してみませんか？

1. 制作方法

- ① テーマの選定
全学の教職員を読者対象とするテーマを選定することとしています。まずは一度、総務部広報課に気軽にご相談ください。特集に馴染まないテーマでない限り、対応します。
（締切日の2週間前までに1度ご相談ください）
- ② 内容・構成の決定
テーマが決まったら執筆部署と学内広報編集スタッフ（以下、編集スタッフ）が打ち合わせをしてページの内容を決めていきます。見開き2ページをひとつの単位とします。内容が盛りだくさんの場合は4ページ、または6ページで構成することもあります。
- ③ 原稿の執筆
決定した構成に合わせて執筆部署に原稿を書いていただきます。字数等は編集スタッフが提示します。原稿はwordファイルでご制作下さい。
- ④ ビジュアル要素の提供
特集に盛り込む写真・図・イラストを執筆部署から提供していただきます。手持ちの写真がない場合は編集スタッフが撮影にうかがいます。
- ⑤ デザイン
お書きいただいた原稿、ご提供いただいた写真・図等を素材にして、編集スタッフがページデザインを作ります。もちろん、執筆部署でデザインを作っていただいてもかまいません。
- ⑥ 校正
デザインしたページイメージをお送りしますので、主に文字校正を行なっていただきます。
- ⑦ 完成
刷り上げた学内広報は、執筆部署に多めに配布します。

2. 締切日

こちらから期日を申しますので、ご協力をお願いします。通常の学内広報×切日（第1・第3水曜日）の2日前を原稿締切日とします。

3. 問い合わせ先・原稿提出先

総務部広報課 広報企画チーム

TEL：03-3811-3393 内線22031

E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

発令年月日	氏名	異動内容 (退職)	旧(現)職等
19.3.31	巻出 義紘	定年	アイソトープ総合センター教授
19.3.31	安田 浩	定年	国際・産学共同研究センター教授
19.3.31	伊藤 眞	定年	大学院法学政治学研究科教授
19.3.31	落合 誠一	定年	大学院法学政治学研究科教授
19.3.31	CH' EN PAUL HENG-CHAO	定年	大学院法学政治学研究科教授
19.3.31	井原 康夫	定年	大学院医学系研究科教授
19.3.31	加我 君孝	定年(国立病院機構東京医療センター臨床 研究センター(感覚器センター)センター長)	大学院医学系研究科教授
19.3.31	高橋 智幸	定年	大学院医学系研究科教授
19.3.31	大場善次郎	定年(情報システム本部特任教授)	大学院工学系研究科教授
19.3.31	鎌田 元康	定年	大学院工学系研究科教授
19.3.31	河野 通方	定年	大学院工学系研究科教授
19.3.31	塩谷 義	定年	大学院工学系研究科教授
19.3.31	長澤 泰	定年	大学院工学系研究科教授
19.3.31	仁田 旦三	定年	大学院工学系研究科教授
19.3.31	藤原 毅夫	定年(大学総合教育研究センター特任教授)	大学院工学系研究科教授
19.3.31	湯原 哲夫	定年	大学院工学系研究科教授
19.3.31	桜井由躬雄	定年	大学院人文社会系研究科教授
19.3.31	平野 嘉彦	定年	大学院人文社会系研究科教授
19.3.31	藤田 一美	定年	大学院人文社会系研究科教授
19.3.31	梅澤 喜夫	定年	大学院理学系研究科教授
19.3.31	西郷 薫	定年	大学院理学系研究科教授
19.3.31	長田 敏行	定年	大学院理学系研究科教授
19.3.31	奈良坂紘一	定年	大学院理学系研究科教授
19.3.31	浜野 洋三	定年	大学院理学系研究科教授
19.3.31	和達 三樹	定年	大学院理学系研究科教授
19.3.31	會田 勝美	定年	大学院農学生命科学研究科教授
19.3.31	阿部 宏喜	定年	大学院農学生命科学研究科教授
19.3.31	浅島 誠	定年(理事、副学長)	大学院総合文化研究科教授
19.3.31	跡見 順子	定年	大学院総合文化研究科教授
19.3.31	石井 明	定年	大学院総合文化研究科教授
19.3.31	太田 浩一	定年	大学院総合文化研究科教授
19.3.31	川合 慧	定年	大学院総合文化研究科教授
19.3.31	竹内 信夫	定年	大学院総合文化研究科教授
19.3.31	谷内 達	定年	大学院総合文化研究科教授
19.3.31	宮本 久雄	定年	大学院総合文化研究科教授
19.3.31	植田 直志	定年	大学院総合文化研究科助教授
19.3.31	佐藤 一子	定年	大学院教育学研究科教授
19.3.31	土方 苑子	定年	大学院教育学研究科教授

発令年月日	氏名	異動内容	旧(現)職等
19.3.31	矢野 眞和	定 年	大学院教育学研究科教授
19.3.31	松本 幸夫	定 年	大学院数理科学研究科教授
19.3.31	大森 博雄	定 年	大学院新領域創成科学研究科教授
19.3.31	澁谷 正史	定 年	医科学研究所教授
19.3.31	高津 聖志	定 年	医科学研究所教授
19.3.31	竹縄 忠臣	定 年 (神戸大学大学院医学系研究科特命教授)	医科学研究所教授
19.3.31	御子柴克彦	定 年 (理化学研究所グループディレクター)	医科学研究所教授
19.3.31	阿部 勝征	定 年	地震研究所附属地震予知情報センター教授
19.3.31	平石 直昭	定 年	社会科学研究所教授
19.3.31	榊 裕之	定 年	生産技術研究所教授
19.3.31	高木堅志郎	定 年	生産技術研究所教授
19.3.31	高橋 實	定 年	物性研究所教授
19.3.31	高山 一	定 年	物性研究所附属物質設計評価施設教授
19.3.31	太田 秀	定 年	海洋研究所教授
19.3.31	小池 勲夫	定 年	海洋研究所教授
19.3.31	寺崎 誠	定 年	海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター教授
19.3.31	石井 輝秋	定 年	海洋研究所助教授
19.3.15	大江 博	辞 職 (外務省国際協力局地球規模課題担当参事官)	大学院総合文化研究科教授
19.3.30	渡辺 泰司	辞 職 (文部科学省大臣官房付文部科学事務官)	医科学研究所教授
19.3.31	陳 肇斌	辞 職	大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センター助教授
19.3.31	初貝 安弘	辞 職 (筑波大学大学院数理物質科学研究科教授)	大学院工学系研究科助教授
19.3.31	吉川 龍志	辞 職 (日本原子力研究開発機構研究職)	大学院工学系研究科助教授
19.3.31	江口 徹	辞 職 (京都大学基礎物理学研究所教授)	大学院理学系研究科教授
19.3.31	市川 淳士	辞 職 (筑波大学大学院数理物質科学研究科教授)	大学院理学系研究科助教授
19.3.31	杉山 和正	辞 職 (東北大学金属材料研究所教授)	大学院理学系研究科助教授
19.3.31	田中健太郎	辞 職 (名古屋大学大学院理学研究科教授)	大学院理学系研究科助教授
19.3.31	TANCREDI CHRISTOPHER DAMIAN	辞 職	大学院総合文化研究科助教授
19.3.31	青木 淳賢	辞 職 (東北大学大学院薬学系研究科教授)	大学院薬学系研究科助教授
19.3.31	川原 茂敬	辞 職 (富山大学大学院理工学研究部教授)	大学院薬学系研究科助教授
19.3.31	藤井 勲	辞 職	大学院薬学系研究科助教授
19.3.31	村重 淳	辞 職	大学院新領域創成科学研究科助教授
19.3.31	伊藤 俊樹	辞 職 (神戸大学大学院医学系研究科准教授)	医科学研究所助教授
19.3.31	井上 貴文	辞 職	医科学研究所助教授
19.3.31	後藤 典子	辞 職 (医科学研究所産学官連携研究員)	医科学研究所助教授
19.3.31	仙波憲太郎	辞 職	医科学研究所助教授
19.3.31	林田 眞和	辞 職	医科学研究所附属病院助教授
19.3.31	三木 裕明	辞 職 (大阪大学蛋白質研究所教授)	医科学研究所助教授
19.3.31	山岡 耕春	辞 職 (名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山・防災研究センター教授)	地震研究所附属地震予知研究推進センター教授
19.3.31	橘川 武郎	辞 職 (一橋大学大学院商学研究科教授)	社会科学研究所教授
19.3.31	佐々木 亨	辞 職 (文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課企画官)	生産技術研究所助教授

発令年月日	氏名	異動内容	旧(現)職等
19.3.31	高槻 成紀	辞 職	総合研究博物館教授
19.3.31	江頭憲治郎	辞 職	大学院法学政治学研究科教授
19.3.31	佐藤 良明	辞 職	大学院総合文化研究科教授
19.3.31	馬淵 一誠	辞 職	大学院総合文化研究科教授
19.3.31	安岡 善文	辞 職(国立環境研究所理事)	生産技術研究所教授
19.3.31	汐見 稔幸	辞 職	大学院教育学研究科教授
19.4.30	戸邊 一之	辞 職(富山大学大学院医学薬学研究部(医学)教授)	大学院医学系研究科准教授
19.4.30	富田 剛司	辞 職	大学院医学系研究科准教授
19.4.30	根本 信乃	辞 職	大学院医学系研究科附属疾患生命工学センター准教授
19.4.30	磯部 寛之	辞 職(東北大学大学院理学研究科教授)	大学院理学系研究科准教授
19.3.31	相原 亮介	任期満了	大学院法学政治学研究科教授
19.3.31	三笥 裕	任期満了	大学院法学政治学研究科助教授
19.3.31	牛島 廣治	任期満了	大学院医学系研究科教授
19.3.31	加藤 進昌	任期満了	大学院医学系研究科教授
19.3.31	幕内 雅敏	任期満了	大学院医学系研究科教授
19.3.31	高山 吉弘	任期満了	大学院医学系研究科助教授
19.3.31	福岡 秀興	任期満了	大学院医学系研究科助教授
19.3.31	岩本 純明	任期満了	大学院農学生命科学研究科教授
19.3.31	永井 暁子	任期満了	社会科学研究所助教授
19.3.31	魚本 健人	任期満了	生産技術研究所附属都市基盤安全工学国際研究センター教授
(採 用)			
19.4.1	飯田 敬輔	大学院法学政治学研究科教授	
19.4.1	大澤 裕	大学院法学政治学研究科教授	名古屋大学大学院法学研究科教授
19.4.1	寺本 振透	大学院法学政治学研究科教授	
19.4.1	畑 瑞穂	大学院法学政治学研究科教授	神戸大学大学院法学研究科教授
19.4.1	高橋 玲路	大学院法学政治学研究科准教授	
19.4.1	小山 博史	大学院医学系研究科教授	大学院医学系研究科科学技術振興特任教員(特任教授)
19.4.1	佐々木 敏	大学院医学系研究科教授	国立健康・栄養研究所プログラムリーダー
19.4.1	橋本 英樹	大学院医学系研究科教授	大学院医学系研究科寄付講座教員(客員教授)
19.4.1	島津 明人	大学院医学系研究科准教授	広島大学大学院教育学研究科助教授
19.4.1	福田 敬	大学院医学系研究科准教授	
19.4.1	何 祖源	大学院工学系研究科准教授	
19.4.1	加藤雄一郎	大学院工学系研究科附属総合研究機構准教授	
19.4.1	藤田 香織	大学院工学系研究科准教授	
19.4.1	張 啓雄	大学院人文社会系研究科教授	
19.4.1	宮田 眞治	大学院人文社会系研究科准教授	神戸大学文学部助教授
19.4.1	横山 広美	大学院理学系研究科准教授	
19.4.1	天野 倫文	大学院経済学研究科准教授	
19.4.1	旭 英昭	大学院総合文化研究科教授	
19.4.1	太田 邦史	大学院総合文化研究科教授	理化学研究所准主任研究員

発令年月日	氏名	異動内容	旧(現)職等
19.4.1	古矢 旬	大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター教授	北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育センター教授
19.4.1	梶田 真	大学院総合文化研究科准教授	九州大学大学院人文科学研究院助教授
19.4.1	佐藤 健	大学院総合文化研究科准教授	理化学研究所研究員
19.4.1	佐藤 光	大学院総合文化研究科准教授	神戸大学文学部助教授
19.4.1	清水 晶子	大学院総合文化研究科准教授	
19.4.1	外村 大	大学院総合文化研究科准教授	
19.4.1	星埜 守之	大学院総合文化研究科准教授	
19.4.1	井上 将行	大学院薬学系研究科教授	東北大学大学院理学研究科附属巨大分子解析研究センター助教授
19.4.1	有田 誠	大学院薬学系研究科准教授	
19.4.1	小林 俊行	大学院数理科学研究科教授	京都大学数理解析研究所教授
19.4.1	山室 真澄	大学院新領域創成科学研究科教授	産業技術総合研究所主任研究員
19.4.1	Kikvidze Zaal	大学院新領域創成科学研究科准教授	
19.4.1	戸堂 康之	大学院新領域創成科学研究科准教授	
19.4.1	稲葉 真理	大学院情報理工学系研究科准教授	大学院情報理工学系研究科研究拠点形成特任教員(特任准教授)
19.4.1	古川 洋一	医科学研究所附属先端医療研究センター教授	医科学研究所研究拠点形成特任教員(特任教授)
19.4.1	村上 善則	医科学研究所教授	国立がんセンター腫瘍ゲノム解析情報研究部腫瘍遺伝子生産物研究室長
19.4.1	盛田 謙二	医科学研究所教授	文部科学省大臣官房付
19.4.1	武藤 香織	医科学研究所附属ヒトゲノム解析センター准教授	信州大学医学部講師
19.4.1	山田 亮	医科学研究所附属ヒトゲノム解析センター准教授	京都大学大学院医学研究科助教授
19.4.1	勝俣 啓	地震研究所附属地震予知研究推進センター准教授	北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター助教授
19.4.1	橋本 秀美	東洋文化研究所准教授(出向)	
19.4.1	五百旗頭薫	社会科学研究所准教授	
19.4.1	松井 博	社会科学研究所附属日本社会研究情報センター准教授	統計センター研究センター部長
19.4.1	帯川 利之	生産技術研究所教授	東京工業大学大学院理工学研究科教授
19.4.1	鼎 信次郎	生産技術研究所准教授	総合地球環境学研究所研究部助教授
19.5.1	馬淵 昭彦	大学院医学系研究科准教授	大学院医学系研究科寄付講座教員(客員准教授)
19.5.1	本田 公	大学院数理科学研究科准教授	
(昇 任)			
19.3.16	鄭 雄一	大学院工学系研究科教授	大学院医学系研究科助教授
19.3.16	牛山 浩	大学院工学系研究科助教授	大学院総合文化研究科助手
19.3.16	杉田 直彦	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科助手
19.4.1	井尻 憲一	アイソトープ総合センター教授	アイソトープ総合センター助教授
19.4.1	小林 雅之	大学総合教育研究センター教授	大学総合教育研究センター助教授
19.4.1	高敷 縁	気候システム研究センター教授	気候システム研究センター助教授
19.4.1	水口 雅	大学院医学系研究科教授	大学院医学系研究科助教授
19.4.1	山岨 達也	大学院医学系研究科教授	大学院医学系研究科助教授
19.4.1	戸邊 一之	大学院医学系研究科准教授	大学院医学系研究科講師
19.4.1	野村 幸世	大学院医学系研究科准教授	医学部講師

発令年月日	氏名	異動内容	旧(現)職等
19.4.1	李 廷秀	大学院医学系研究科准教授	大学院医学系研究科講師
19.4.1	沖田 泰良	大学院工学系研究科准教授	大学院工学系研究科助手
19.4.1	菅野 太郎	大学院工学系研究科准教授	大学院工学系研究科助手
19.4.1	高井まどか	大学院工学系研究科准教授	大学院工学系研究科講師
19.4.1	田島 芳満	大学院工学系研究科准教授	大学院工学系研究科講師
19.4.1	山崎 裕一	大学院工学系研究科准教授	大学院工学系研究科講師
19.4.1	小田部胤久	大学院人文社会系研究科教授	大学院人文社会系研究科助教授
19.4.1	熊野 純彦	大学院人文社会系研究科教授	大学院人文社会系研究科助教授
19.4.1	佐藤 宏之	大学院人文社会系研究科教授	大学院人文社会系研究科助教授
19.4.1	遠藤 貢	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科助教授
19.4.1	甚野 尚志	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科助教授
19.4.1	野矢 茂樹	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科助教授
19.4.1	HONES SHEILA ANNE	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科助教授
19.4.1	松原 宏	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科助教授
19.4.1	齋藤 晴雄	大学院総合文化研究科准教授	大学院総合文化研究科助手
19.4.1	今井 康雄	大学院教育学研究科教授	大学院教育学研究科助教授
19.4.1	能瀬 聡直	大学院新領域創成科学研究科教授	大学院理学系研究科助教授
19.4.1	熊谷 一清	大学院新領域創成科学研究科准教授	大学院新領域創成科学研究科助手
19.4.1	山根 克	大学院情報理工学系研究科准教授	大学院情報理工学系研究科講師
19.4.1	鎮西美栄子	医科学研究所附属病院准教授	医学部講師
19.4.1	家氏 友子	東洋文化研究所教授	東洋文化研究所助教授
19.4.1	玄田 有史	社会科学研究所教授	社会科学研究所助教授
19.4.1	丸川 知雄	社会科学研究所教授	社会科学研究所助教授
19.4.1	堤 敦司	生産技術研究所教授	大学院工学系研究科助教授
19.4.1	小森 文夫	物性研究所教授	物性研究所助教授
19.4.1	吉信 淳	物性研究所教授	物性研究所助教授
19.4.1	徳永 将史	物性研究所附属国際超強磁場科学研究施設准教授	大学院工学系研究科助手
19.4.16	小畑 元	海洋研究所准教授	海洋研究所講師
19.5.1	加藤 聡	大学院医学系研究科准教授	医学部講師
(配置換)			
19.4.1	森川 博之	国際・産学共同研究センター教授	大学院工学系研究科教授
19.4.1	木内 貴弘	大学院医学系研究科教授	医学部教授
19.4.1	青木 則明	大学院医学系研究科准教授	医学部助教授
19.4.1	高木 信一	大学院工学系研究科教授	大学院新領域創成科学研究科教授
19.4.1	馬場 靖憲	大学院工学系研究科教授	先端科学技術研究センター教授
19.4.1	野崎 歆	大学院人文社会系研究科准教授	大学院総合文化研究科助教授
19.4.1	小林 修	大学院理学系研究科教授	大学院薬学系研究科教授
19.4.1	浅井 祥仁	大学院理学系研究科准教授	素粒子物理国際研究センター助教授
19.4.1	木畑 洋一	大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター教授	大学院総合文化研究科教授
19.4.1	小寺 彰	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター教授
19.4.1	山口 和紀	大学院総合文化研究科教授	情報基盤センター教授
19.4.1	山口 泰	大学院総合文化研究科教授	大学院情報学環教授

発令年月日	氏名	異動内容	旧(現)職等
19.4.1	佐々木正人	大学院教育学研究科教授	大学院情報学環教授
19.4.1	本田 由紀	大学院教育学研究科准教授	社会科学研究所助教授
19.4.1	菊池 和朗	大学院新領域創成科学研究科教授	先端科学技術研究センター教授
19.4.1	安達 裕之	大学院情報学環教授	大学院総合文化研究科教授
19.4.1	岡田 猛	大学院情報学環准教授	大学院教育学研究科助教授
19.4.1	倉田 博史	大学院情報学環准教授	大学院総合文化研究科助教授
19.4.1	安富 歩	東洋文化研究所准教授	大学院情報学環助教授
19.4.1	保立 道久	史料編纂所附属前近代日本史情報 国際センター教授	史料編纂所教授
19.4.1	遠藤 基郎	史料編纂所准教授	史料編纂所附属前近代日本史情報国際センター助教授
19.5.1	金 幸夫	大学院工学系研究科准教授	大学院工学系研究科附属総合研究機構准教授
19.5.1	山本 博一	大学院新領域創成科学研究科教授	大学院農学生命科学研究科附属演習林教授
(出 向)			
19.4.1	高木 周	出 向(理化学研究所)	大学院工学系研究科准教授
(兼 務 免)			
19.4.1	山本 正幸	遺伝子実験施設長	大学院理学系研究科教授
(兼 務 命)			
19.4.1	西郷 和彦	附属図書館長	大学院工学系研究科教授
19.4.1	林 良博	総合研究博物館長	大学院農学生命科学研究科教授
19.4.1	徳田 元	アイソトープ総合センター長	分子細胞生物学研究所教授
19.4.1	尾張 眞則	環境安全研究センター長	環境安全研究センター教授
19.4.1	黒田 眞也	遺伝子実験施設長	大学院理学系研究科教授
19.4.1	寶月 岱造	アジア生物資源環境研究センター長	大学院農学生命科学研究科教授
19.4.1	渡部 俊也	国際・産学共同研究センター長	国際・産学共同研究センター教授
19.4.1	小川 雄一	高温プラズマ研究センター長	高温プラズマ研究センター教授
19.4.1	山本 一彦	医学教育国際協力研究センター長	大学院医学系研究科教授
19.4.1	中島 映至	気候システム研究センター長	気候システム研究センター教授
19.4.1	井上 正仁	大学院法学政治学研究科長法学部長	大学院法学政治学研究科教授
19.4.1	清水 孝雄	大学院医学系研究科長医学部長	大学院医学系研究科教授
19.4.1	武谷 雄二	医学部附属病院長	大学院医学系研究科教授
19.4.1	立花 政夫	大学院人文社会系研究科長文学部長	大学院人文社会系研究科教授
19.4.1	山本 正幸	大学院理学系研究科長理学部長	大学院理学系研究科教授
19.4.1	生源寺眞一	大学院農学生命科学研究科長農学部長	大学院農学生命科学研究科教授
19.4.1	柴崎 正勝	大学院薬学系研究科長薬学部長	大学院薬学系研究科教授
19.4.1	雨宮 慶幸	大学院新領域創成科学研究科長	大学院新領域創成科学研究科教授
19.4.1	下山 勲	大学院情報理工学系研究科長	大学院情報理工学系研究科教授
19.4.1	清木 元治	医科学研究所長	医科学研究所教授
19.4.1	大久保修平	地震研究所長	地震研究所教授
19.4.1	小森田秋夫	社会科学研究所長	社会科学研究所教授
19.4.1	横山 伊徳	史料編纂所長	史料編纂所教授
19.4.1	宮島 篤	分子細胞生物学研究所長	分子細胞生物学研究所教授
19.4.1	西田 睦	海洋研究所長	海洋研究所教授
19.4.1	宮野健次郎	先端科学技術研究センター所長	先端科学技術研究センター教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。No.1357 2007. 5. 16

EVENT LIST

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
東文研セミナー 「モンゴルにおける漢人移民社会の宗教とその施設」	5月23日(水) 16:00~18:00	工学部8号館7階736号室	東洋文化研究所 榎屋友子 E-mail: masuya@ioc.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
「東京大学の英語教育—改革の道程と今後の展望 Teaching English at Komaba」 ※1356号参照	5月25日(金) 12:30~17:30	駒場Iキャンパス18号館 18号館ホール(1階) コラボレーションルーム1(4階)	教養学部英語部会主任室 TEL: 03-5454-6279 (内線: 46279)
第55回小石川植物園市民セミナー 「形で区別できないシダ植物の多数の新種」 ※1356号参照	5月27日(日) 13:00~15:00	理学系研究科附属植物園本園 (小石川植物園) 柴田記念館	理学系研究科附属植物園 杉山宗隆准教授 TEL: 03-3814-0368
現代文芸論研究室主催 特別講義・朗読会 境界を越えて詩を書く ——セルビアと日本の間で——	5月29日(火) 17:00~19:00	法文1号館319教室 地階2019・2020番 現代文芸論演習室	大学院人文社会系研究科 現代文芸論研究室 TEL & FAX: 03-5841-7955
哲学研究室主催 「国際ウィトゲンシュタイン・ワークショップ」	6月2日(土) 13:00~	法文2号館 文学部一番大教室	大学院人文社会系研究科 哲学研究室 TEL & FAX: 03-5841-3739
春の公開講座「グローバル化」第5日	6月2日(土) 13:30~	安田講堂	総務部広報課内 財団法人 東京大学総合研究会 電話: 03-3815-8345 (直通) E-mail: kouhou@mail.adm.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/d04_01_01_j.html
110回オルガン演奏会 《「イタリア展」を記念して》 ※1356号参照	6月7日(木) 18:30開演 (18:00開場)	教養学部 900番教室(講堂)	総合文化研究科・教養学部オルガン委員会 TEL: 03-5454-6139 (美術博物館) E-mail: cmaeda@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp URL: http://organ.c.u-tokyo.ac.jp/
2008年度「人間の安全保障」プログラム入試説明会	6月9日(土) 13:00~14:30	駒場キャンパス 18号館ホール	大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム 事務局 TEL & FAX: 03-5454-4930 E-mail: hsp-toiawase@hsp.c.u-tokyo.ac.jp URL: http://human-security.c.u-tokyo.ac.jp/
第2回女子高校生のための「サイエンスカフェ本郷」	6月17日(日) 13:00~16:00 (12:30開場)	理学部1号館2階 小柴ホール	大学院理学系研究科・理学部 広報室 TEL: 03-5841-7585 E-mail: kouhou@adm.s.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.s.u-tokyo.ac.jp/event/science-cafe2/
111回オルガン演奏会 ※22ページ参照	6月28日(木) 18:30開演 (18:00開場)	教養学部900番教室(講堂)	大学院総合文化研究科・教養学部オルガン委員会 TEL: 03-5454-6139 (美術博物館) E-mail: cmaeda@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp URL: http://organ.c.u-tokyo.ac.jp/
史料編纂所附属画像史料解析センター 開設10周年記念研究集会 「画像史料研究の成果と課題」 ※22ページ参照	6月29日(金) 13:00~17:00	山上会館大会議室	画像史料解析センター開設10周年記念事業実行委員会 委員長: 林 謙 (hayashi@hi.u-tokyo.ac.jp) 幹事: 末柄 豊 (suegara@hi.u-tokyo.ac.jp) FAX: 史料編纂所事務室 (03-5841-5956)
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
常設展示「(新制)東京大学総長著作展(1) —南原総長から向坊総長まで—」 ※1353号参照	3月1日(木) ~5月31日(木)	総合図書館3階ロビー	附属図書館 URL: http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/
所蔵品展「測る人・描く人」	3月24日(日) ~5月31日(木)	駒場キャンパス 自然科学博物館	自然科学博物館 URL: http://museum.c.u-tokyo.ac.jp/index.html
創造の広場イタリア	3月24日(土) ~6月17日(日) 休館日: 毎週火曜日 開館時間 10:00~18:00	駒場博物館1階 美術博物館展示室	総合文化研究科・教養学部 美術博物館 TEL: 03-5454-6139 FAX: 03-5454-4929
第3回 高齢者教室 (老後を迎えるにあたって起こり得る様々な問題についての、老年病の各専門分野の方々の講演) ※1352号参照	3月28日から6月13日 までの毎週水曜日 (4/4と4/11は休み) 14:00~	東大病院 入院棟A 15階大会議室	東大病院老年病科 TEL: 03-5800-8652 担当 野村
東京大学科学技術インタープリター養成プログラム 社会人向け講座	5月24日(木) 6月7日(木)21日(木) 7月5日(木) 18:00~19:30	教養学部内で開催	科学技術インタープリター養成プログラム事務局 TEL & Fax: 03-5465-8828 URL: http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/STITP/adult_education.html
第35回生研公開講座イブニングセミナー 「都市と環境のフィールド調査の現場から」	5月11日(金) ~7月13日(金) (5月25日、6月1日を除く 各全曜日 全8回) 18:00~19:30	生産技術研究所 総合研究実験棟(A棟) 3階大会議室	生産技術研究所 総務・広報チーム TEL: 03-5452-6864/FAX: 03-5452-6071 URL: http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/
総合研究博物館公開講座 「植物・動物・社会—西アジア考古学からみた ドメスティケーションの始まり」	6月12日(火) ~7月10日(火) 15:00~17:00 (全5回10時間)	総合研究博物館 展示ルーム内講義室	総合研究博物館 URL: http://www.um.u-tokyo.ac.jp/
駒場IIリサーチキャンパス公開2007 ※1356号参照	5月31日(木) ~6月2日(土) 10:00~17:00	駒場IIリサーチキャンパス	先端科学技術研究センター 生産技術研究所 URL: http://www.130out.pr.u-tokyo.ac.jp/event/campus.html
総合研究博物館公開講座 「植物・動物・社会—西アジア考古学からみたドメ スティケーションの始まり」	6/12(火)、6/20(水)、 6/26(火)、7/3(火) 7/10(火) 15:00~17:00	総合研究博物館 展示ルーム内講義室	総合研究博物館 TEL: 03-5777-8600/FAX: 03-5841-8451 E-mail: web-master@um.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.um.u-tokyo.ac.jp/education/lecture_200706.html

Contents

特集

- 02 東大病院いちょう保育園、オープン！
- 06 「東京大学の業務改善」着々と進行中！

NEWS

- 10 春の紫綬褒章受章

部局ニュース

- 11 大学院農学生命科学研究科・農学部
技術基盤センターの設置
- 11 大学院総合文化研究科・教養学部
三鷹国際学生宿舎で「新入宿舎生歓迎会」
開催される
- 12 生命科学教育支援ネットワーク
第4回「東京大学の生命科学」シンポジウム
- 13 大学院総合文化研究科・教養学部
オーストラリア研究図書寄贈式典開催される
- 14 医学部附属病院
医学部附属病院にマッサージ室がオープン

キャンパスニュース

- 15 学生部
平成19年度入学者数、決まる

コラム

- 16 バリアフリーの現場から 第8回
- 17 Crossroad～産学連携本部だより～Vol.16
- 18 インタープリターズ・バイブル Vol.3
- 18 調達本部です 第27回
- 19 コミュニケーションセンターだより No.33
- 19 Relay Column「ワタシのオシゴト」 第13回
- 20 龍岡門横丁囃 第17回
- 20 噴水 「第7回高校生の意見発表会」でシリウス賞受賞

INFORMATION

シンポジウム・講演会

- 21 医科学研究所
第34回医科学研究所創立記念シンポジウム
「医科学研究最前線」

お知らせ

- 21 大学院総合文化研究科・教養学部
「教養学部報」第502（5月2日）号の発行
—教員による、学生のための学内新聞—
- 22 大学院総合文化研究科・教養学部
教養学部で111回オルガン演奏会の開催
- 23 史料編纂所
画像史料解析センター開設10周年記念研究
集会「画像史料研究の成果と課題」開催の
お知らせ

事務連絡

- 24 人事異動（教員）

30 EVENT LIST

淡青評論

- 32 国際会議

◆ 表紙写真 ◆ 東大病院いちょう保育園
(2ページに関連記事)

編集後記

今回の巻頭特集は「いちょう保育園」開園。男女共同参画はこの保育園ばかりにとどまりません。夜の構内の安全を考慮した「夜間照明整備」など今後も様々な取り組みが予定されています。また、もうひとつの特集「業務改善」では、様々な効率化の試みを紹介しました。多様化する大学、そして、変わりゆく大学……これからも、学内広報は刻々と変化する大学の姿をお伝えしていきます。(し)



七徳堂鬼瓦

国際会議

初めて国際会議に出席したのは、確かフランスだった。大学時代に習ったフランス語圏で生のフランス語に接する機会に恵まれて、嬉しかった記憶がある。筆者の専門は自然科学なので、発表内容とフランス語は直接の関係はないが、会議での激しかった議論も今となっては良い思い出となっている。当時の日本にまだスターバックスはなく、喫茶店では酸味の強いコーヒーが主流であり、フランスで飲んだほろ苦いコーヒーは美味であった。

その頃の国際会議におけるプレゼンテーションは今では主流となったパワーポイントによる発表と異なり、トラペとプロジェクターを用いた発表で、トラペ用のサインペンと修正用の消しゴムなどが不可欠であった。研究室の先生が国際会議に出席し、面白そうな発表のトラペのコピー（紙媒体）を日本に持ち帰る。世界で話題となっている最新情報をそのコピーを取り囲みながらの議論から学ぶというのが一般的であったと思う。今では、会議の発表に使用されるパワーポイントファイルはその日のうちにウェブ上にアップロードされ、時には会議の様様をウェブキャストにより、日本に居ながら拝聴することができる。コンピューターの進歩についていくのに四苦八苦の先生方よりも、むしろ若い学生諸君の方が格段に多くの情報に瞬時に接することが可能となった。十年一昔というが、まさに隔世の感がある。

その後、数多くの国際会議に出席した。若い頃は、国際会議では必ず自分の発表があった。自分の発表の準備やこれから発表する内容に関する想定質問に対する回答などを考えていると、他の研究者の発表をきちんと聞く余裕がなかった。また、国際会議で発表するたびに発表準備やその後始末（プロシーディングスの原稿書き）に追われることになる。一年に何回も国際会議に発表するとそれらの雑務？に追われて、実際の研究活動に支障をきたすことにもなりかねない。

歳月は流れて、最近では会議の組織委員会など裏方の仕事はあるが、自分の発表がない国際会議出席もぼつぼつと出てきた。ところが、これがなかなか良いのである。自分の発表義務がない状態で他の研究者の発表をゆったりと聞いていると、ふと良いアイデアが浮かんできたりする。自分の発表で追い詰められていた時にはとてもこういうことはなかった気がする。また、他の研究者との議論によって良いアイデアが浮かんでくることもある。

IT技術の進歩により、国際会議に実際に出かけることなくテレビ会議等で会議を行うことも可能であり、また時間や経費の節約になることもあろう。しかし、雑事やメールに追いかけられるテレビ会議や国内会議ではなく、日常から切り離された状態で人が実際に顔をあわせる昔ながらの国際会議の有用性を、声を大にして訴えたいと思うのは筆者の時代錯誤であろうか？

瀧田 正人（宇宙線研究所）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1357 2007年5月16日
東京大学広報委員会

〒113-8654
東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課
TEL：03-3811-3393
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
<http://www.u-tokyo.ac.jp>